

2024年度教育活動における学校評価報告書

2025年3月31日

学校法人聖公会栄光学園聖アルバン幼稚園

園長 成田 綾子

学校関係者評価委員会

1, 教育目標

- ・キリスト教保育を通して「自分が大切にされていることを実感し、人を愛することのできる子どもになってほしいと願う。
- ・思いきり遊ぶ事によって、子どもたちの考える力・聞く力・話す力が育ち、また、集中力が身についていくよう、“あそび”を大切にされた保育を充実させる。
- ・同年齢や異年齢で関わる中で育ち合い、主体的に活動する事で心も体も健やかに成長するよう導く。

2, 本年度取り組んできた重点目標

- ・日々の保育の中で、神さまを身近に感じるような場面を大切にすることで、お祈りや賛美する時が心地よくなるよう導く。
- ・子どもたちの主体性を大事にし、1人1人の個性(特性)を理解していきながら、適切に対応する。
- ・怪我や事故に瞬時に対応できるような備えをし、未然に事故を防ぐための対策も講じる。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が十分ではない D:取り組みが不十分である

| 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---|------|---|---------|--|
| | 評価 | 学期の取り組み状況・成果 | 評価 | 意見 |
| 天地創造から繋がる四季折々の自然の事象に関心を寄せ、心を動かす。 | B | 《年少・未満児》 夏はどろんこ遊び、冬は裸足で雪の上を歩いてみるなど、この一年の季節を体感しながら色々な遊びをすることが出来、子どもたちも思いきり楽しむ姿が見られた。 《年長・年中児》 聖話から子どもたちと天地創造の絵を描いたり、園庭のマルメロ(シンボルツリー)の木の命にも思いを寄せることが出来た。 近隣の公園では、つくしやたんぼぼ摘みを楽しみ、アートにしたり、砂浜では遊びはもちろんの事、砂浜の温かさを体験するなど心を動かす時となった。 | A | ・公園や空き地など自然がある場所で様々な体験をさせている様子を目にし、とてもいいと思っている。 ・アルバンといえば“自然”、子どもたちの自然な姿を大切にし、自然環境を活かしての保育も展開していると感じる。 ・自然そのものに触れさせ、子ども自身がそのものになるかのような体験をしており、とても良い。 |
| 集会の中で、年長児が主体的に考え行動できるような声がけを大切に、年中・年少児をも導いていく。 | A | 《年少・未満児》 集会を通して、年長児が中心となり考え行動していく姿に憧れを持ち、クラスの中で率先して誰かを手伝おうとする姿が見られた。 《年長・年中児》 集会という全園児が集う場において、年長児が積極的に行動する場面を作っていく中で、一人ひとりの個性も尊重され、他のクラスの子はその姿に憧れを持つなど、微笑ましい姿がたくさん見られ全クラスの心の成長につながった。 | A | ・助け合う経験を大切にしていることはとても尊い。 ・保護者の参観日の感想からも、先生たちは子どもたちが自発的に考えられるような環境を作っていると感じる。 ・保護者の感想を通して保育者が結果より、その子を認め、待つことで個性をどんどん出せていること、またその中で子どもたちの感性が磨かれていると感じる。 |
| ヒヤリハットや事故報告書の振り返りをし、どのような状況下での出来事かを把握し、安心して保育に従事できるよう整える。 | B | 《年少・未満児》 ヒヤリハットから、遊具遊びでの怪我が多く、思いがけない事故もあり、瞬時に対応する難しさを感じている。ただ、その経験から新たな危険に気づき職員間で改善策を講じることは出来た。 《年長・年中児》 日頃から怪我がないよう職員の人数配置や環境の確認など行っているが、思いがけない、また予期せぬ事故もあり、瞬時の判断の難しさは感じている。ただ、数々の事例からヒヤリハット・事故報告書への記入・怪我の処置・保護者への連絡・園長への報告などは出来ていたため、対応の仕方を学ぶ場ともなった。 | B | ・100%の安全はない。どんなに頑張っても大怪我につながることもある。大事なのは、普段からの行いであり保護者との信頼関係の積み重ねがリスク軽減にも繋がる。100%に近づけるためには、振り返りが重要であり、気を付けていく事を具体化し、職員間で共有することはしっかりとやる。 ・子どもたちの行動を把握した上で必要なルールを決めていけば貴園ならではのマニュアルが出来るのではないかと。 |

4, 総合的な評価 A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が十分ではない D:取り組みが不十分である

| 評価 | 理由 |
|----|---|
| B | 日頃から大切にしている3つの評価項目について取り組む中で、自然に“キリスト教保育”が中心となっていることが伺えた。ただ、キリスト教保育をもっと深めていけるのでは？という課題も見つかり、その具体的な方向性も明らかになったので次年度へ意欲を持って歩んでいきたい。 |

5, 今後取り組むべき課題

| 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|---|
| 天地創造から繋がる四季折々の自然の事象に関心を寄せ、心を動かす。 | 《年少・未満児》 その時期、そのタイミングでしか体験できない事を見逃さず提案し、その時の子どもたちの発見や楽しみ方を見つめ、保育者自身もわくわくしながら保育を楽しみたい。それに伴い、準備物など環境設定にも細やかな気配りをしていきたい。 《年長・年中児》 今以上に四季折々の自然の変化や日常の天気などに感心を寄せ、子どもたちが主体的に関わり想像力を発揮できる保育の環境設定に力を入れていきたい。 |
| 集会の中で、年長児が主体的に考え行動できるような声がけを大切に、年中・年少児をも導いていく。 | 《年少・未満児》 集会での子どもたちの姿から、年長児が年少児に伝承する姿や感性が育っていると感じる場面では保育者自身、学びを得られた。保育者としての自分のスキルアップのためには、集会での新たなチャレンジや、大きな集団の中で自己発揮出来ない子などに配慮した、小グループでの活動も取り入れてたい。 《年長・年中児》 異年齢との関わりの場で、年長児が自分を表現する中で頼りにされているということも実感し、自己肯定感が高まっていく様子が伺える。リーダーを中心に職員全員で集会の質を高め、子どもたちが育ち合う姿を見守っていきたい。 |
| ヒヤリハットや事故報告書の振り返りをし、どのような状況下での出来事かを把握し、安心して保育に従事できるよう整える。 | 《年少・未満児》 ・主体的活動は大切にしていきたいので、遊びが制限されないようにしつつ、予測される事故は回避できるようにしていきたい。 ・子どもたち自身も危険回避力をつけるべく、集中力・瞬発力を高められるような運動なども取り入れていきたい。 《年長・年中児》 ・今年度の経験を知識とし、次へ活かせるようにしていきたい。 ・職員間で、年齢に合った遊び方などを“見える化”し、いつでも、どこでも、誰でも対応できるよう共有していきたい。 ・想定外の事への対応には苦慮するが、慌てず、迅速かつ丁寧に対応出来るよう、危機管理意識を職員間で共有し、チームで解決出来るよう努めていきたい。 |